

SSKS 風の子便り

ひとりぼっちの障害者をなくそう



目次



- ☆きょうされん大会報告1 .. 2
- ☆きょうされん大会報告2 .. 3
- ☆きょうされん大会報告3 .. 4
- ☆追悼文1 5
- ☆追悼文2 6
- ☆区民・ヒューマン祭り売上げ
報告・感想 7~9
- ☆学習会・活動報告 10
- ☆虫めがね 11
- ☆きょうされんデモ行進感想
・夕会便り 12
- ☆岡本副会長連載 13
- ☆小野塚連載14
- ☆和栗連載・スケジュール・
寄付のお礼15
- ☆編集後記 16



巻頭文

いつの間にか秋も深まったというのに、真夏日になったりして安定していませんが、皆様にはお元気でお過ごしですか。この間イングリッシュガーデンを観る機会に恵まれ観に行ってきましたが、青銅のかなり大きな噴水の周りを濃い紫のラベンダーと真っ赤なサルビアが取り囲み、それはそれは綺麗でした。

太田 圭子

今回は、松本恵司さんと利用者フォーラムに参加しました。一日目は、色々な物で音を奏でようというものでした。バケツや空き缶など様々な日常にある物で音を奏でながらみんなで踊ったり、歌ったりして楽しみました。二日目は、滋賀県のゆるキャラと遊ぼうという催しで、コンサートを楽しみました。二日間通して思ったことは、分科会とは関係ないのですが色々な作業所の利用者、職員が集まって何かをしようとするエネルギーは素晴らしいものを生み出すと思いました。最後になりましたが、行かせてくれた風の子会、そしてボランティアの方々にはとても感謝しています。ありがとうございました。

岡本 裕介

きょうされん全国大会参加報告1

今年もきょうされんに参加してきました。開催場所は、滋賀県の大津でした。私は、太田稔さんと一緒に分科会に出ました。分科会のテーマは、地域で暮らすスタイル～結婚している人、結婚したい人～でした。1日目は、結婚についてのアンケートに答えました。次に結婚に必要な事はなにか自分なりに書いていくことをしました。結婚したい人、結婚してる人、結婚したくない人、結婚したいけど自信がない人、様々な意見を聞いて面白かったです。太田さんも発表していました。結婚してからも、とても幸せです。と言っていました。そしたら、周りから歓声がありました。他の作業所の人にも、いい刺激になったかなと私も嬉しい気持ちになりました。

2日目は、1日目と同じアンケートに答えて、昨日の話を聞いて結婚について考えが変わったか書いたりしました。みんな1日目より、結婚がしてみたい人が増えたようでした。

他の作業所の人のお話を聞いて、積極的に将来の事を考えている姿を見て感心しました。きょうされんは、いろいろな刺激があるのでメンバー、職員もとてもいい経験になると思いました。2日間とても充実できてよかったです。

これからも、いろんな形で風の子を盛り上げて行きたいと思いました。

平沼 実華

きょうされん全国大会参加報告②

今年のきょうされん大会は、十月二十二日（土）・二十三日（日）に滋賀県で行われ、風の子からは、職員の岡本さん・山名さん・丸山さん&平沼さん、会員からは柳川さん・太田（稔）さん・松本恵司さんと三木で参加しました。

数ある分科会の中で私が出席した分科会は、特別分科会というもので「脳血管障害・中途障害の基礎知識」というこれからの生活に役立つものを選びました。一日目は、脳血管障害について医師が来られて動脈硬化が最大の原因らしいので塩分を控えて（一日：8g）過ごす生活スタイルにするようにとのことでした。二日目は中途障害について、中途障害とは、今まで普通に暮らしていた人が、ある日突然事故などにより障害を持ってしまった人の体験談を聴きました。その中で印象に残ったのは、「今は社会復帰に向けて例えば工賃が安くてもりハビリと思って頑張っている」という言葉でした。

三木 直人

「趣味・文化」という分科会に参加しました。そこでは3作業施設からアートへの取り組みの報告が聞くことができました。作業の一つの方法として作品作りに取り組むところ、クラブ活動として取り組むところ、アートが活動の主体として取り組むところ、様々な取り組みがありました。またそれらの活動はそれぞれに人に伝える発表の場を持つことにより、社会との繋がりがありました。内職やら作業だけが社会と繋がる手段ではないのだと感じました。

風の子としてもなにかしらの自己表現活動が出来ないかと、無い頭を搾ろうかと思えます。どなた様でもこんな事してみたいという思いをお寄せ頂けるとありがたいです。

山名 宗孝

去年に引き続き今年もきょうされん大会に行かせて頂きました。今年は滋賀ということで、天気が心配だったものの、結果的に雨はほとんど降らず幸いでした。

きょうされん大会の目玉でもある分科会では、私は今年メンバーの柳川さんと共に、利用者交流会「私たちこんな活動しています」というテーマの分科会に参加しました。

内容的には、障害者が中心に運営している自治会の活動をメインに、各作業所の活動も含めながら発表するというもので、各自治体の会長さん達が自分たちの活動をレポートしてくれました。

今回私が一番この分科会で感じたことは「積極性」でした。例えば、「自分たちの住む街なのだから自分たちで変えていこう！」という言葉と共に地域の障害者達が自分たちで自治会を立ち上げ、要望書を作り、それを企業や市に提出する活動をしたり、自分たちの作業所を建てる資金を障害者が中心となって集めたり、東北の震災被災者のために何かできることがあるはずということで、東北にお手伝いに行ったり等、自分たちから積極的に社会と向き合い、関わり、変えていこうという姿勢が強く見え、頭が下がる思いでした。

自身も勿論ですが、こういった積極性を風の子の皆にも伝えると共に、社会と関わる意欲と機会を少しづつでも増やせて行ければな、と思いました。

丸山 泰慶

きょうされん全国大会参加報告3

10月22日と23日、滋賀県で第34回きょうされん大会がありました。参加メンバーは松本先輩、太田さん、三木さんです。職員は岡本ボス、山名さん、丸山さん、平沼さん達です。みんなで新幹線に乗って滋賀県に向かいました。琵琶湖ホールに着いた時間は11時30分です。みんなで弁当を食べてから琵琶湖を散歩しました。

僕は丸山さんと一緒にしが21に行きました。そこでは分科会が行われました。

皆で自己紹介をしました。僕は自分の名前をちゃんと言えました。

日曜日はしが21で会議が始まりました。パソコンで他の作業所を紹介していました。皆さんが頑張っていました。僕も頑張ります。他の作業所ではお年寄りのためにお弁当を作って配達しています。僕はパソコンを使って風の子便りを作っています。

僕達障害者は人の手を借りて生活しています。皆さん、笑顔で行きましょう。最後はアンケート用紙に感想を書きました。僕の企画を皆さんの前で発表する事です。

22日の夜、僕達は琵琶湖ホールで待ち合わせしました。三木さんが遅れて来ました。僕達は歩いて琵琶湖ホテルで一泊しました。松本恵司先輩は岡本ボスと一緒に部屋でした。太田さんアンド三木さんは山名さんと一緒に部屋でした。僕は丸山さんと一緒に部屋でした。部屋に荷物を置いたら隣のビルにむかいました。お楽しみの夕食です。僕と恵司先輩は唐揚げ定食を頼んで食べました。美味しかったです。太田さんはすき焼き定食とビールを頼みました。三木さんはカレーライスとコロケを注文しました。みんなが幸せな顔をしていました。恵司先輩と三木さんは先にホテルに帰りました。僕は家族の為にクッキーを買いました。太田さんの世話をしなからホテルに戻りました。楽しい夜でした。

柳川 敬事

去る、十月二十二日・二十三日の両日滋賀県大津市で、第三十四回共同作業所連絡会全国大会(略して 共同作業所連絡会(きょうされん)が開かれました。僕が出た、「分科会」のテーマは「地域で暮らすスタイル」という分科会でした。五十人くらいの出席者で、討議に入りました。討議にはいるとみんな活発な意見が出されました。僕もこんな重度でありながら、結婚していることをみんなの前で発表しました。これを機にみんなで、結婚問題について活発な意見交換が行われましたが、障害者の結婚の条件は家族の理解は勿論こと、いくらか蓄えも必要だということでした。

太田 稔

きょうされん大会は滋賀県でした。滋賀はくもりで、山名さんたち職員達と石山駅にある琵琶湖ホールに行きました。琵琶湖ホールはとてもおしゃれな建物で中は広いと思いました。僕は甘いものに目がなく、お弁当のあんこの和菓子を平沼さんに食べさせてもらいました。びわ湖はとても大きいし、じゃり道になっていました。

分科会の内容は1日目は午前・午後ともイケメン風の男の人3人ダンスグループが踊っていました。2日目はユメの雫という歌手グループの歌を聴きました。

泊まったホテルは車いすが通れるようバリアフリーでした。岡本さんがエレベーターの所で迷っていました。

松本 恵司

立石さん、「なごみ」をありがとうございました。

いつも飄々として、ユーモアたっぷりの立石さん。がっしりした体格で、貫禄があって、初めて風の子会にこられた方は立石さんのことを所長だと思っ人もいました。

立石さんが風の子会に来られたのは数年前、ご病気のあと鹿児島から東京に引っ越して来られてすぐでした。以来、風の子会に来るのを毎日楽しみにしておられた立石さん。いつもにこにこし、ときには職員をからかったりしながら作業を楽しんでおられました。

作業の横で私がパソコンに向かって会計の仕事をしていると、「あんた、何をそんなに真剣にやると？ もっと気楽に働かんね。」と鹿児島弁で冗談を言ったり、皆で外出したときに、ふっといなくなって、どこへ行かれたかと探すと「ちょっときれいなネエちゃんがおったから見とったんよ。」とか、とにかく楽しい方でした。

奥様に伺うと、いつも優しい方で、とくに最近「喜怒哀楽」の「怒」と「哀」が無くなって「喜楽」のおだやかな毎日だったそうです。一月ほど前に体調を崩して入院され、その後肺炎を併発されて残念なことに亡くなれましたが、最後まで冗談を言っておられたとのことです。

立石さんが来ておられると高浜作業所にはいつも暖かい「なごみ」がありました。きっと天国でも周りに冗談を言ってなごみを与えておられることなのでしょう。もうお目にかかることができないのはとても寂しいですが、立石さんの思い出はいつまでも消えることはありません。「なごみ」をありがとうございました。

平成23年11月11日

岡本 明



長く一緒だったような思い出が浮かんできます。それは港区の中に風の子会という障害者の作業所があります。私は78歳（女）、亡くなった立石さんは75歳。

今年の7月に歌と踊りの集いという行事に、石川五右衛門とゆうお芝居をやったことが忘れられない思い出になりました。

私も立石さんも台詞の役をやり（他にも太田夫妻・真部さん・斉藤臣ちゃん・朝生君佐久間さん・田村君職員の山名さんが台詞担当

でした。）、おばあちゃんが若いおじいちゃんに気合いを入れたり楽しい時間でした。そのおかげで素晴らしいお芝居ができました。出演者の皆さんも良い思い出になりました。

立石さんありがとう。

松本成子





追悼文2

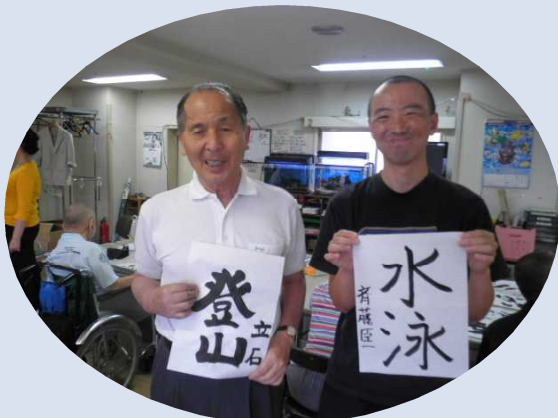
カラオケ好きだった立石さん

立石さんと言われて思い出すことは、色々あります。女性には優しい、昼食を早く食べ食べたがる、仕事は早い、集中力が続かない・・・でも、みんなの人気者。と色々ありますが、僕が思い浮かべることはカラオケです。初めて聞いたときは、なんて渋い声を出すんだろう、と思いました。また良く女性職員やボランティアとデュエットしていたのを思い出します。立石さんに渋い声を出す秘訣を聞いたところ「岡本さんはまだ若いからまだまだ出すのに



時間がかかるねえ」と言われたことを思い出します。私もいつか立石さんみたいなあんな渋い声を出しながら女性とデュエットしてみたいと思っています。立石さんもその時は、「岡本さんも渋い声出るようになったなあ。」と言ってくださいね。立石さん今まで本当にありがとうございました。

岡本裕介



区民祭り



今回初めて風の子会の皆様とみなと区民祭りに参加させて頂きました。祭りで出店することも初めてでしたので内気な自分としては少々戸惑いはありましたが、風の子会の皆様と楽しいひとときを過ごさせて頂きました。

私は現在理学療法士の学校に通っています。今回ボランティアに参加させていただき、傾斜のある道や不安定な道、人ごみでの車椅子介助、トイレ介助、食事介助など学校では本格的に学べないことを学ばせていただきました。まだ不慣れな部分があり、中々上手くいかなかったこともあったのでまだまだ勉強が足りないことを実感しましたが、スタッフの皆様のご協力もあり無事終えることができました。

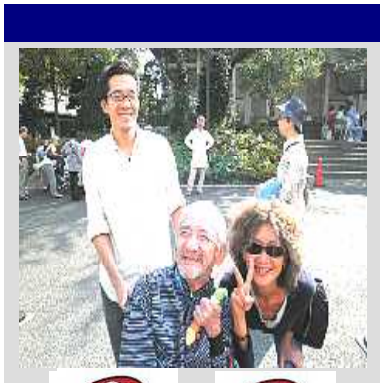
祭り全体は出店数も多く、ステージでもジャンル問わずさまざまな催し物が行われていて、お子様からお年寄りまで誰もが楽しめる活気ある祭りでありました。埼玉県民の自分にとって、やはり東京は一味違うなど実感する一日でした。

宇和川洋平



いつも天気恵まれないことが多かったのですが、今年は天気に恵まれて良かったです。今年は暑く、みんなの広場の方にも店を出したのですが、日陰にあって助かりました。DVDのセットが中々売れなかったのですが、内田洋子さんが頑張ってくれたおかげで、最後の最後まで売れて、ホッとすると同時に嬉しかったです。休憩の時は色々周れて楽しかったです。ハロウインの置物を作るコーナーでは作る体験ができて良かったです。

青木 和代



先日はボランティアに参加させていただき、ありがとうございます。ありがとうございました。スタッフの方や利用者の方がたにお世話になり、大変感謝しております。

みなと区民まつりでは、風の子の活動を拝見させていただき、ボランティアとしての関わり方や、利用者の方との接し方など多くのことを学べたと感じています。特に、利用者の方との車いすでの移動時には、歩道での段差が多く、衝撃がなるべく車いすに伝わらないように気を付けなければならなかったこと、まつりということもあり、歩行者が多く、車いすが接触しないようにしなければならなかったことなど、実際に経験しなければ分からないことが多く、良い経験になったと思います。また1日という短い間で、利用者の方の生活の一部が垣間見れたように思います。スタッフの方と利用者の方とのコミュニケーションが上手くとれているからこそ、普段通りに接し、お互いの信頼関係が生まれているように感じました。

私は現在、理学療法士の養成校に通っておりますが、今回得られた経験を今後に生かしていきたいと思っております。

ボランティアに参加させていただいたのは今回が初めてとなりましたが、色々ご迷惑をおかけした部分もあったかと思っております。今後も機会があれば参加させて頂きたいと思っておりますので、その際は宜しくお願い致します。

上原 浩司

今回のボランティアに参加させていただいた背景には1つのあるきっかけがありました。それは私達理学療法士を目指す学生は、毎日様々な疾患に対して勉強をしていますが、実際に患者様に接しなければどのような症状なのか具体的に実感できない疾患も数多くあると日々感じています。そこで、障害のある方々をお手伝いさせていただくことで、私達がこれからすべきこと、しなければならないこと、また私達に求められていることなど現場でしか知り得ないことを肌で感じ、それを机上での勉強と結びつけて理解する必要があると考え、今回のボランティアに参加させて頂きました。

1日施設の方々と過ごさせていただき一番に感じたことは、みなさんの笑顔でした。施設の方々それぞれ活発に動ける方とそうでない方がいましたが、みなさんお酒を美味しく飲んで、いろいろなものを食べたりとても楽しそうな様子を見ることが出来ました。ボランティアを終えて考えてみると、施設の方々がそのように楽しめるのは職員の皆さんが同じ目線で対等に接している部分が大きく影響しているのではないかと感じました。介助する側とされる側ではなく、冗談を交えながら友達のように接している姿がとても印象的で、お互いの信頼関係をしっかりと築き上げ、その事が笑顔を引き出させているのではないかと思います。

私は昨年と今年の2回、学校の授業の一環として実際に病院で患者様と接する機会をいただきました。その時も感じた事ですが今回のボランティアでもやはりコミュニケーションの取り方、信頼関係を築く事の重要性を強く実感しました。この経験を踏まえ、よりいっそう勉学に励みたいと考えております。今回のボランティアでお世話になりました風の子会実習所の方々、同職員の方々、また関係者の皆様へ、このような機会をいただき改めて感謝しております。ありがとうございます。

神野 浩介



ヒューマン感想

ヒューマンぷらざ祭りでは天気が怪しいかなと思いましたが、最後まで持つてくれてよかったです。

また今年には六階にある多目的室で行われた音楽セラピーに参加しました。セラピーでは歌を歌ったり、CDの曲に合わせて楽器（タンバリン等）で演奏したりしました。久しぶりに演奏したので新鮮で楽しく、時間が過ぎるのが早くて、仕事を忘れてしまう程充実した時間が過ごせました。少しバタバタしたもの、楽しくあつという間の一日でした。

青木 和代



区民感想

今回の区民まつりは両日共天気に恵まれました。そのお陰も有り客足が良かったです。今回はいつもの場所ともう一つの場所に出店しました。僕の事情でそのちの店の手伝いは出来無かったので客足や足場（うりやすさ）等は分かりませんでした。ですが、店が増えた事は良かったです。舞台でも特に好みの演目は無かったので殆ど出歩きませんでした。其の分仕事の方を頑張りました。また来年も天気に恵まれ、良い二日間に成るのを願います。

田村 亮彦



区民まつり売上金額報告

工房（手作り商品等）

95,850円

企画（カレンダー等）

68,135円

バザー（古本・陶器等）

87,505円

総売上金額

251,490円

ヒューマンプラザまつり

売上金額報告

工房（手作り商品等）

21,770円

企画（カレンダー等）

19,350円

バザー（古本・陶器等）

2,600円

総売上金額

43,720円

皆さま、お買い上げありがとうございました。

活動報告

今月(十月)の活動は、みなと区民祭りやヒューマンぷらざ祭りが行われたため、工房での手作り商品作りや、企画でのカレンダーの注文や梱包作業などを行われ、充実をした一ヶ月でした。

そんな中、二十一日(土)は、きょうされん大会に参加しない人たちは、自主活動として両国にある江戸東京博物館に行きました。そこで開催をされている、ベネチア美術館へ見学をしました。そこからは班行動をしました。十六・十七世紀時代の、ヨーロッパの肖像画や巨大地球儀などが展示をしてあり、僕らの班は、それに興味を持つ人がいて時間を忘れるくらいゆっくりと見学をしました。

そして午後からは、日本橋・三越へ行き、デパ地下でショッピングをしました。僕は家のお土産として、とらやの羊羹や夕食のおかずなどを買って帰りました。とても有意義な一日でした。さらに、十月五日(水)は有明の東京ビックサイトで開催をされた、国際福祉機器展に風の子会を代表として、岡本明さん、岡本裕介さん、小野塚さんの三名が参加をしました。その感想は、例年通り最新の福祉機器を見て回り、本の自動ページ捲り機や車道を走れる車椅子などがあり、例年に比べ奇抜な福祉機器が多く見られました。明さんが、福祉機器の關係に詳しく、いろいろ説明をしてもらいました。

次回は、皆で国際福祉機器展に行きたいと思います。

田中 聡

学習会



10月5日水曜日。風の子会のみんなで区民祭りの準備をしました。

12日水曜日。風の子会のみんなでテーブルゲームをやりました。

19日水曜日。風の子会のみんなでヒューマンプラザへ行ってカラオケ大会を開きました。

26日水曜日。きょうされん大会の報告とロンドンについて勉強しました。

風の子のみんなが真剣に頑張っていました。僕は風の子会に来て良かったです。

記憶に残るのはカラオケ大会で田中先輩と一緒に歌った事です。一所懸命やる事が大切です。

次回の記事も楽しみにして下さい。 柳川 敬事

「なりたかった職業、ある？」カクテルグラスを片手に君は尋ねる。
「プロ野球選手」マルボロを啜えながらウィキペディアを検索しつつ
適当に応える。

「子供の頃の夢の話ではなくて、大人になってからの話」TVの音楽情報番組に見ると
もなしに視線を置きながら君は更に尋ねる。

「大人になってからは、夢を見たり描いたりしたことなんてないよ」目的の要項がなか
なか検索できずにいて、僕は少し苛々しはじめる。

「それでも聞いてみたいの。何か一つくらいあるはず」グラスをテーブルに置き、バー
ジニアスリムを指の間に挟みながら君は言う。検索の方向性を変えて、ウィキペディア
の画面を睨みつけながら、マルボロを灰皿に押しつける。

「企業のPR活動、小さな町興しのようなお祭り、TVCM、選挙活動・・・そういった
イベントのようなものを企画して主催する。クライアントの要望に必死に応えつつ、
自分たちのアイデアも要所要所に取り入れる。始めは下請けで働いて、ノウハウを覚え
たら独立して会社を設立する。・・・そんな妄想をしたことがあったかもしれない」水
割りに口をつけながら、ようやく検索がヒットして一心地つく。

「あなたってすごい」感心した素振りを全く見せずに君は言う「頭の中で考えているこ
とと全く別のことを平然と話せるなんて」

僕の思考スタンスをズバリと見抜いて言う君も、本当にすごいと思った。

小野塚 航

虫めがね

なりたい
職業

僕の『なりたかった職業』は、消防士や警察官のような公務員になって、人命救助や犯罪
者を逮捕をして、二度と犯罪を起こさせない刑事を目指したいです。人命救助では、震災や
台風での災害救助レスキュー隊が、汗水かきながら働いている所を見ると、憧れてしまいま
す。日頃から、辛くて過酷な訓練が身につけているからだと思います。なぜ警察官になりた
いかというと、今秋より、暴力団追放運動を行っています。僕ならば十年ぐらい前から、取
り調べを行ったり、検挙へ向けて動いたりすれば、元タレントのS氏のように、引退記者会見
をしなくても良かったと思います。これで少しは、芸能人と暴力団との関係や、相撲界と暴力
団との関係が修復してくることを切に願っています。

田中 聡

なりたい職業はいくつか有る。

1) 私は学生時代に数学が得意だったので高校の時に簿記の勉強をしていた。その事
から簿記の資格を取り会計事務所を経営し企業や福祉団体などの決算や金銭的なアド
バイスを与えてお得意先から喜んで貰える様な仕事がしたい。

2) 高校時代に入り社会福祉にも関心を持ち、社会福祉学科を勉強する為、明治学院
大学の聴講生してと入学しようと試みたが、高校の成績の悪さと当時の明学は車いす
設備が整って無いと言われ門前払いされ残念だった。しかし学生の中に知り合いがい
てその人の仲間と一緒に社会福祉概論の教授に授業を受けたいと個人的にお願いし

たら、受けても良いと言われたので、少し勉強する事ができた。それらを

生かしてケースワーカーや理学療法士、障害者の相談役みたいな事を

したい。

幸 高史

夕会便り



10月29日の夕会で話された議案は二つ。一つは学習会の内容が不確定だったものを夕会で煮詰めていく作業を行った。二つめはクリスマス会の日程と担当委員決め。

11月5日は、月末に開かれるクラブ活動について提案者の岡本君からざっとした説明があった（本当にざっとした説明であった）。

11月12日、翌年2月に行われる東都きょうされん交流会の説明があり、参加者を募るがなかなか手が挙がらず、どうしたものかと思っていたところようやく一名手を挙げ、何とか体裁が整う。次いで障害者週間記念事業に伴う物品販売の参加者を募る。こちらはさっと手が挙がり、あっという間に決まった。

小野塚 航



イベントに参加して

障害者総合福祉法（仮称）の制定を目指して、十月二十八日（金）午前十時～午後四時日比谷公園で行われ午後三時半から四時まで（日比谷公園～東京駅）行進が行われました。当会からは、太田稔さん・小野塚さん・三木と職員では、岡本さん・河原さんが出席しました。障害者総合福祉法は、障害者自立支援法に代わって新たに作られた法律で障害者福祉サービスの利用者負担は原則無料とうたっていて、これが国会で通って法律化されればとても有り難いはなしです。



※新しい法律は来年四月から実施される

※現在の自立支援法は十三年八月には撤廃するそうです

三木 直人

風の子便り連載

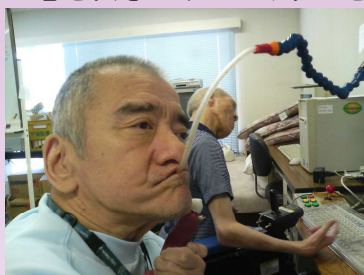
バリアフリーよもやま話

第5回 「スイッチ1つでパソコンを動かす」

手も足も動かない、声も出ない。耳は聞こえるので相手の言うことは分かるが答えられない……。筋ジストロフィーや ALS（筋萎縮性側索硬化症）などの神経難病が進行した状態や、重度の脳性まひなどの場合このような状況になることがあります。コミュニケーションは非常に困難です。しかしどんな状況でも、本人の意思を確認していろいろな支援をしていくことが大切です。「時間だからお茶を飲みましょう」、「5時だからトイレへ行きましょう」、ではいけません。

どうしたらいいのでしょうか。キーワードは「1 スイッチ」です。身体がまったく動かないといっても、少なくとも 1 ヶ所、自分の意思で動かせる部位があれば、スイッチを一つ ON/OFF することができ、それによって、はい/いいえの意思表示ができます。

自分の意思で、指先が 1 ミリ動かせる、首を傾けられる、息を吹き込める、目を動かせる、などが分かれば、それに合わせてスイッチを工夫できます。たとえば随意に息を吹くことができる場合は「呼気スイッチ」が使われます。呼気スイッチはチューブで息を吹きつけてスイッチを ON/OFF するもので、パソコンの画面に表示した定型



文章（はい、いいえ、のどが渴いた、体位を変えて、ありがとう、など）を選ぶことができます。

キーボードを画面に表示して、パソコンが一文字ずつ「これですか」、「これですか」というように聞いてくれば、スイッチで文字を選んで文章作成やメールなどもできます。風の子会では太田稔さんがこれを使ってパソコンを駆使し、「風の子便り」の原稿を書いて

います。時間はかかりますが、確実に文字が入力できます。

実はこの息による機器の操作方法は、パソコンが世の中に現れる前に風の子会で使われていたのです。プランジャーという電磁石でレバーが動く部品を使って、電動タイプライタのキーを上から押して操作する「風の子ハンド」という装置です。口にくわえたチューブの先に風船があり、息で風船を膨らませるとマイクロスイッチが押され、それによってプランジャーがタイプライタのキーの上を動いていきます。押したいキーの上に来たときにまた息を吹くとプランジャーが動作してキーを押すのです。



写真は 1980 年頃、「風の子ハンド」の練習をしているところです。この装置は、風の子会の事務局長の井出さんが発明し、手作りで組み立てたものです。世界に先駆けて「呼気スイッチ」を考え出したすばらしいアイデアマンですね。特許をとっていたら大金持ちになっていたのに。

自分の意思で動かせる部位がどうしても見つからない場合は、脳波や筋電（筋肉を動かそうとするとき筋電から出る電気）などを使う方法もあります。脳波をスイッチに使うには、たとえば暗算など、あることを集中して考えることによって出る特定の脳波を検出するのです。これは使い方も難しく速度も遅いのですが、製品化もされており、今後の発展が期待されます。

あくまでも本人の意思を尊重すること、これが支援の基本です。

わたるのドミトリーライフ

【ドミトリーとは英語の dormitory つまり寮という意味】

第41話 “吊り橋のロジック”（そんな話じゃないけれど）

買い出していた食材や酒などを教室に持ち運んで一息ついた頃に、他の参加者たちが青部駅に着いた。駅からセミナーハウスまでは歩いて数分程度で、ようやくたどり着いた彼らを僕らが迎える。「おつかれさま」「早く着いたんだな」「予定通りですよ」そんなふうにしてみんなでハウスに入る。

一息ついてから体育館に集まり、例年通りにワークショップが始まる。それが終わると夕食作りだ。合宿での定番メニューであるカレーライスを作り、みんなでおいしく食べる。食後は校舎の裏にある風呂に入り、その後は朝までえんえんと続く宴会となる。「明日どうする？」缶ビールを片手にタイキがふとそう投げかける。「明日も天気は良さそうだし、昼飯の後に大井川を渡ってみないか？」その場にいた数名が、その提案に飛び乗った。

翌日、午前中のワークショップを済ませて昼食を簡単に終わらせて川へと向かう。夏の暑い時期なのに、川から流れるやさしいせせらぎが涼しさを感じさせる。「3度目にして初めて、こんなふうにちゃんと川を眺めた気がする」流れは穏やかだが、川幅はかなりある。背後に見える山々とのコントラストは、都心では見ることのできない風景だ。「あっちに橋がある。行ってみようぜ」タイキが言い、僕も後を追う。

橋とはいって見たものの、それはどちらかといえば吊り橋といったほうが正しい代物だった。ロープで吊られたその上に板張りが張られている。川の上10メートルくらいに張られたその吊り橋は、渡るにはちょっとした勇気がいるものだった。「あれを、マジで渡るのかよ？」「そうしなきゃ、向こう岸には行けないだろ？」「俺、車いすだし、吊り橋はちょっと無理なんじゃないか……」ビビリをそれとなく隠しながら言う僕を、ある声が遮った「わたしがおぶってくよ」。

その声はミノリだった。マキと同じ学年で、マキの友人で、この年からゼミに入った3年生だ。ショートカットの髪を無造作に流し、背は僕と変わらないくらいで、華奢なスタイルで、カエルのように黒目の大きなコだ。「でも俺、けっこう体重あるし、女子にはたいへんなんじゃない……」「大丈夫です。こうみえて高校では体育会系だったし、体力には自信あるんです」「体育会系って……」「ミノリちゃんがこう言ってるんだ。車いすは適当に置いて、渡ろうぜ」タイキの押しとその場の勢いに、それ以上の抵抗はできなかった。

橋の手前に車いすを置き、ミノリが僕を背負う。「しっかりつかまってね」「う、うん……」学生の頃はこんなふうに誰かに背負ってもらってどこかに移動するということは確かに多かった。けれどもそれはたいていが同性に背負ってもらうのであって、女子におぶってもらうなんてことはめったにない。しかもそれで吊り橋を渡ろうというのだ。緊張感は増長していく。「ほんとに大丈夫か？」「うん。言ってた割には軽いじゃない」前後をタイキやフクマがフォローするようにながら、ミノリは軽々と背負い続けた。ミノリに背負われて吊り橋を揺られながら渡る。背負われながら流れる大井川を眺めていると、なんだか不思議な感覚に取り込まれていくような気がした。

～ 第42話へつづく ～

あんぱん物語
第四回

義兵は、

「木村様の今夜お泊まりの宿ですが、此所はご覧の通り異国人の町なので日本人の泊まれる宿屋など一軒もないのです。木村様が宜しければ、私の友達が働いている、ホテルと言う、異国の宿屋はいかがでしょうか。日本の宿屋と違いホテルでは、各部屋は壁で仕切られ、出入口にはドアという扉があり、その扉には、鍵が付いており、鍵をかければ安心していられます。」

靖衛門は、義兵の話しを聞きながら、珍しい町並みを眺め、少し行くと夕陽に眩しく輝く海が見えた。沖には大きな船が、それぞれの国の国旗をなびかせて停泊をしている。

栗あきら

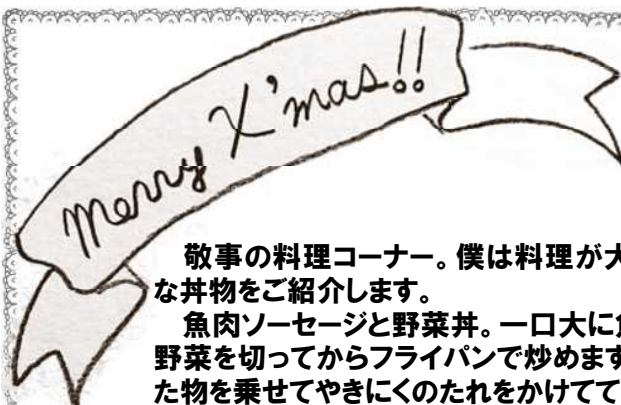


～寄付のお礼～

賛助会にご賛同して下さった方
松澤いくえ様
市川美江様
ご協力ありがとうございました。

～スケジュール～

12月17日
クリスマス会
12月27日～1月4日
冬休み



敬事の料理コーナー。僕は料理が大好きです。簡単な丼物をご紹介します。
魚肉ソーセージと野菜丼。一口大に魚肉ソーセージと野菜を切ってからフライパンで炒めます。飯の上に炒めた物を乗せてやきにくのたれをかけてできあがりです。

今年のプロ野球、特にセ・リーグは、意外なチームが上位にいるので、非常に面白いです。例年と同じチームが上位を独占していて、面白みに欠けるのですが、今年は違います。クライマックスシリーズ・日本シリーズも面白くなりそうです。最後まで目が離せません。

三木 直人

編☆集☆後☆記

早い者で2011年も残り僅かとなりました。今年も様々な出来事がありましたね！その中でも3月11日、東日本を中心に大地震が起き、東京にも震度5弱の強い地震が午後2時45分頃から3時台にかけて3回連続して起こり津波注意報が出され私は勿論多くの人々もビックリされた事と思います。この日、私は風の子会でパソコンを打っていて地震が来たので今の震度はどのくらいなんだろうと思い、インターネットを開いて見てみました。一回目の地震のときはビックリしなかったのですが、二回、三回と来たので、怖くなってテレビを見たら津波の情報が出ていました。風の子会は通常は三時半から送迎が始まる予定だったのですが、避難警報が出ていたため、外に出ることが出来ず、風の子会で夕方五時まで待機していました。五時から送迎が始まったのですが、地震の影響でエレベーターが止まったり、道路が非常に混んでいて車がなかなか動かなかったので歩いて行った方が早いと言う事になり途中でキャブを駐車場に置いて車椅子を職員が押して家に帰宅したが時計を見たら午後九時頃になってしまいました。

それから一ヶ月か二ヶ月は余震が続き、私は風の子会以外は表に出るのが怖くて出れませんでした。

幸 高史



ひとりぼっちの障害者をなくそう

特定非営利活動法人・風の子会

~定価40円~

編集者
 柳吉右松田小太
 川田田本中野田
 塚
 敬久磨恵 圭
 事代子司聡航子

和幸三田佐太
 栗 木村久田
 顕 間
 太高直亮
 郎史人彦庸稔

編集人：【高浜生活実習所】
 生活介護、就労継続支援B型

〒108-0075
 東京都港区港南1-1-27 カナルサイド高浜3階
 TEL 03(3474)9674 FAX 03(3474)9213

ブログ：<http://kazenokokai.blogspot.com>

発行人：障害者団体定期刊行物協会
 東京都世田谷区砩6-26-21

